

杉野原の御田舞おんだのまいが奉納されます

杉野原の御田舞は、国の重要無形民俗文化財に指定されている伝統芸能です。2月11日(木・祝) 13時から有田川町杉野原区の雨錫寺阿弥陀堂(国指定重要文化財建造物)において奉納されます。

御田とは、稲作の生産過程を模擬的に演じることにより、その年の五穀豊穡ほうじよくを神仏に祈願する行事です。高野山周辺地域に残る御田は、「修正会しゆしやうえ」と呼ばれるお正月の仏教行事の中で行われてきたものが、長い歴史の中で独立して行われるようになったものと考えられており、その歴史は中世までさかのぼると言われています。

杉野原の御田舞は、春の田起こしから牛使い、稲刈り、もみすりまでの一連の農作業の仕事を主題とするもので、これほど丹念かつ克明に稲作の次第を演じる御田は全国でも例が少なく、大変貴重なものと評価されています。また、御田舞の冒頭で行われる「裸苗押はだかえやし」は、ふんどし姿の男たちが円陣を組んで大火鉢の周りを回る舞で、杉野原の御田舞の特徴をなす大変勇壮なものです。

現在、全国的にも過疎化によって伝統芸能の保存や継

承が困難な時代を迎えています。保存会を中心とした杉野原区民の皆さまによる並々ならぬ努力によって、数百年以上にもわたる伝統が継承されています。2月11日には、多くの皆さまにこの歴史ある伝統芸能をご観覧いただき、激励していただければと思います。

※2月11日は、杉野原の御田舞を保存記録するために、映像の撮影を実施いたします。見学者の皆さまには、ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

